

第396回 昭和の森自然観察会

葉っぱの切り絵でしおりを作ろう

佐野由輝（大網白里市）

日 時：2025年7月13日（日）10時～12時、天気：晴れ

参加者：17名（大人14名・子ども3名）

担当指導員：佐野・高森、管理事務所：2名

猛暑が続く中、今回は、空調の効いた室内で、リーフアート（葉っぱ切り絵）を楽しみながら、樹木の不思議さを感じてもらいました。

初めに、樹木の多様性を感じてもらうため、昭和の森で採取した樹木の葉っぱ（コナラ、ケヤキ、クスノキ、ホオノキ等）をテーブルに並べ、子どもたちに観察してもらい、好きな葉っぱを選んでもらいました。最初は、一番大きな葉っぱであるホオノキを選ぶ子どもが多かったのですが、手に取ったり、触ったりしてもらい、再度選んでもらったところ、表と裏で感触が違うスダジイや葉脈の凸凹が明瞭なコナラを選んでいました。

続いて、リーフアートの材料であるアオキの葉っぱをじっくりと観察してもらい、気づいたことを発表してもらうと、「つるつるしている」、「血管のような模様がある（葉脈）」、「葉っぱのまわりがギザギザしている」等、アオキの特徴をいろいろ発見していました。そして、アオキの名前の由来や北海道のアオキ（ヒメアオキ）と千葉県のアオキの違いなど、アオキに関するクイズを3問出して、アオキに関する知識を学んでもらいました。

そして、いよいよ、本番のリーフアート（葉っぱ切り絵）です。まずは、練習として、星形を切り取ってもらいました。慣れないいうちは、上手に切れず、悔しそうな顔をしていた子どももいましたが、少しずつ、カッターの使い方のコツをつかむと、見違えるように上達していきました。練習で、ある程度慣れたところで、本番である動物の形を切り取ってもらいました。用意した動物の形は、クマ、ウサギ、キツネでしたが、最も難易度の高いキツネを選ぶ人が一番多かったです。大人も子どもも、ほとんどサポートの必要がなく、器用に切り取っていて、中には、目や耳を切り取ったり、背景に雪を降らしたり、効果線をつけて動きを表現したり、創意工夫を凝らした個性的な作品を仕上げていました。感想を聞くと、「最初は難しかったけど、だんだん楽しくなった」「切っているうちに、葉っぱの特徴が実感できた」などの回答がありました。

最後に、リーフアートの目的は、リーフアートそのものを楽しんでもらうことではなく、リーフアートを通して、樹木や自然に关心を持つてもらうことであり、これを機に、昭和の森や近くの公園で、樹木の観察を続けてほしいと伝えて、終了しました。

